

8. 分 詞

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) その少女たちはずっと微笑み続けた。

(girls / time / smiling / the / . / the / kept / all)

(2) 婦人が絵を見ながら立っていた。

(looking / the / lady / at / picture / . / a /
stood)

(3) その老女は子どもたちに囲まれて座っていた。

(woman / surrounded / . / old / by / sat / the /
children)

(4) 彼女は私を 3 時間待たせ続けた。

(me / three / . / waiting / hours / she / for /
kept)

(5) 彼は窓を開けたままにしておいた。

(windows / . / left / opened / he / the)

[解答]

- (1) The girls kept smiling all the time.
- (2) A lady stood looking at the picture.
- (3) The old woman sat surrounded by children.
- (4) She kept me waiting for three hours.
- (5) He left the windows opened.

Note

8. 分詞

1. 分詞の叙述用法

(1) その少女たちはずっと微笑み続けた。

The girls kept smiling all the time.

↑
keep ~ing
「～し続ける」

↑
「ずっと」

分詞の叙述用法とは、次のようなものになります。

- 分詞の叙述用法…① 〈S+V+分詞(C)〉 や
② 〈S+V+O+分詞(C)〉
の形で分詞が用いられる用法。

まず、①の〈S+V+分詞(C)〉から見ていくと次のようになります。

① S+V+分詞(C) S=Cの関係が成り立つ。

- (a) 補語が必要な自動詞の補語として分詞が用いられる。
- (b) 補語を必要としない自動詞のとき「～しながら」という意味で分詞が使われる。

(a) I kept thinking about the difficult question.

(私はその難問をずっと考えていた。)

(b) I stood frozen in front of judges.

(私は審判員の前で凍りついて立っていた。)

言葉が少し難しいですが、(a)の「補語が必要な自動詞」とは、目的語は必要ないが動詞だけでは意味が完結せず、補語を必要とする動詞のことです。

上の(a)の例文では、**kept** だけでは何を続けていたのかわからないので、**thinking**「考えて」が必要になるのです。そして、この **thinking** は主語 **I** を説明して補っている補語にもなっていますので、「主語=分詞」つまり、S=Cの関係が成り立っていることになります。

このような形をとれる動詞には次のようなものがあります。

[(a)分詞を補語にとる自動詞]

become, get (～になる) appear, look, seem (～に見える)

feel (～な感じがする) keep (～し続ける)

remain (～のままである) smell (～な匂いがする)

次に、(b)の「補語を必要としない自動詞」とは、目的語も必要とせず、また補語がなくても意味が一応完結している動詞のことです。そのとき「～しながら」という意味で分詞が使われています。

(b)の例文では、**I stood** で「私は立っていた」と一応意味が完結しています。**frozen** は「凍りついて(凍りつきながら)」といった意味で副詞的に **stood** を修飾する形になります。

このような形を取る動詞には次のようなものがあります。

[(b)「～しながら」の意味で後に分詞をとる自動詞]

lie (横たわる) sit (座る) stand (立つ) go (行く)

(1)の問題は、(a)の形になり、**kept** の後に **smiling** を続けて「…微笑み続けた」を作ることになります。この **keep ~ing** は「～し続ける」でほぼ熟語として覚えておきましょう。

Note

(2) 婦人が絵を見ながら立っていた。

A lady/stood/looking at the picture.

stand 「立つ」の過去形

分詞の叙述用法「～しながら」

(2)の問題は、(b)の文の形に当てはまり、「…見ながら立っていた」ですので、**stood looking** を作ります。主語 **lady** と「見ながら」は能動関係になりますので、現在分詞 **looking** がくるとも理解しておきましょう。

Note

(3) その老女は子どもたちに囲まれて座っていた。

The old woman sat surrounded by children.

sit 「座る」
の過去形

分詞の叙述用法「～されて」
surround 「～を囲む」の
過去分詞

(3)の問題も(b)の文の形になり、ただ「…囲まれて…」となっていて主語 the old lady とは受動関係がありますので、過去分詞の surrounded を動詞 sat の後に使うことになります。surround は「～を囲む」の意味の動詞です。

Note

(4) 彼女は私を 3 時間待たせ続けた。

She kept me waiting for three hours.

keep A ~ing
「A を～している状態にし続ける」

「3 時間」

次に、分詞の叙述用法②の〈S+V+O+分詞(C)〉は次ページのようになります。

② S+V+O+分詞(C) Oが分詞の意味上の主語

(a) S+V (keep, leave, find など)+O+分詞

(b) S+知覚動詞+O+分詞

…「SはOが～している[される]のを(知覚)する」

(c) S+使役動詞+O+分詞

…「SはOが～している[される]状態にする」

(a) I kept the students waiting for a long time.

(私は生徒たちを長い間待たせた。)

(b) I saw you running in the park yesterday.

(あなたが公園を走っているのを私は昨日見た。)

(c) She made me cook lunch yesterday.

(彼女は昨日私に昼食を作らせた。)

この②の文の形では、分詞は目的語 O を補って説明しています。

(a)の〈S+V (keep, leave, find など)+O+分詞〉で、現在分詞が置かれたときと過去分詞が置かれたときの違いは次のようになります。

S+V+O+現在分詞 「SはOが～している状態にする」

S+V+O+過去分詞 「SはOが～される状態にする」

(a)の例文では、「生徒たち」the students を「待っている(状態)」waiting に「保ち続けた」kept という形になっています。これは〈keep A ~ing〉「A が～している(された)状態にし続ける」の意味の熟語になっていますので、次のものとも合わせて覚えておきましょう。

keep A ~ing 「A が～している(された)状態にし続ける」

leave A ~ing 「A が～している(された)ままにする」

find A ~ing 「A が～している(されている)のがわかる」

(4)の問題では「…私を…待たせ続けた」となっていますので、kept me waiting の形を作ることになります。

Note

(5) 彼は窓を開けたままにしておいた。

He left the windows opened.

↑
leave A+過去分詞
「A を～された状態のままにしておく」
leave-left-left

(5)の問題では、「…窓を開けたままにしておいた」ですので、〈leave A ~ing〉「A が～している(された)ままにする」を使って、left the windows open の語順を作りましょう。

(b)の知覚動詞や(c)使役動詞については、次ページにまとめを載せませんが、詳しくは「1. 文型」のところで述べていますので、そちらを見てください。

[知覚動詞]

主語 + 知覚動詞 + 目的語 + 動詞原形	…動作の全部
see (見る) 現在分詞	…動作の途中
hear (聞く) 過去分詞	…目的語が～される
feel (感じる)	

「(目的語)が～する [～している、～される] のを
(主語)は見る・聞く・感じる」

We **saw** her working yesterday.

知覚動詞 目的語 現在分詞

(私たちは昨日彼女が働いているのを見た。)

I **heard** this song sung yesterday.

知覚動詞 目的語 過去分詞

(私はこの歌が昨日歌われるのを聞いた。)

[使役動詞]

主語 + **make** + O + **動詞原形** … 「O に～させる」
(強制的に) **過去分詞** … 「O を～させる」(慣用表現のみ)

主語 + **have** + O + **動詞原形** … 「O に～させる、～してもらう」
(当然に) **過去分詞** … 「O を～してもらう、～される」
現在分詞 … 「O に～させる、～させておく」

主語 + **let** + O + **動詞原形** … 「O に～させる」
(望み通り)

主語 + **get** + O + **to + 動詞原形** … 「O に～させる、～してもらう」
(当然に) **過去分詞** … 「O を～される、～してもらう」
現在分詞 … 「O に～させる、～させておく」

3.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(1) ある少年がテニスに関する本を読んでいる。

(boy / book / is / tennis / a / a / there /
reading / . / about)

(2) 彼は川へ泳ぎに行った。

(river / went / the / . / in / he / swimming)

(3) 彼女は宿題をするのに忙しかった。

(busy / . / was / homework / she / her / doing)

[解答]

- (1) There is a boy reading a book about tennis.
- (2) He went swimming in the river.
- (3) She was busy doing her homework.

Note

2. 分詞の慣用表現

(1) ある少年がテニスに関する本を読んでいる。

There is a boy reading a book about tennis.

There is[are]+S+分詞
「Sが～している[～されている]」

前の名詞に係る

「テニスに関する」

分詞の慣用表現で注意を要するものに、次のようなものがあります。

There is[are]+S+分詞 「Sが～している [～されている]」

There are some of my friends playing tennis.

(私の友だちが何人かテニスをしている。)

There is no water left in this bottle..

(このビンに水は残っていない。)

この表現は、聞き手にとって新しい情報になる人・物が「～している」または「～されている」状態であることを表しています。

(1)の問題では、「ある少年が…読んでいる」となっていますので、「ある少年」を聞き手にとっては新しい情報だと考えて、**There is a boy reading** とすることになります。

これを、**A boy is reading book about tennis.**とすると、とても不自然な文になります。なぜなら、文頭に新しい情報を持って来るのが、英語では抵抗があるからです。旧情報から新情報への語順になるのが英語の文の自然な流れとなります。文頭に新情報を置くのを避けるため、この表現が使われます。

Note

(2) 彼は川へ泳ぎに行った。

He went swimming in the river.

↑
go swimming
「泳ぎに行く」
go ~ing 「~しに行く」

(2)の問題では次の表現を使って英文を作りましょう。

go ~ing 「~しに行く」

My father went fishing in the river.

(私の父は川に釣りに行った。)

この表現では、go ~ing の後の場所を示す前置詞に go につられて to を入れないよう注意が必要です。~ing の動作を行う場所を示す in, at, on などを置くことになります。

go shopping at a supermarket (スーパーに買い物に行く)

go skating on the lake (湖にスケートに行く)
go jogging around the Nagai Park
(長居公園の周りをジョギングしに行く)

Note

(3) 彼女は宿題をするのに忙しかった。

She was busy doing her homework.

be busy ~ing

「~するのに忙しい」

do one's homework

「宿題をする」

(3)の問題は、次の表現を用いています。

be busy (in) ~ing 「~するのに忙しい」

My wife was busy packing her suitcase.

(私の妻はスーツケースに荷物を詰めるのに忙しかった。)

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(4) 彼らはきのうテレビを見て何時間も過ごした。

(hours / . / yesterday / TV / spent / watching /
they)

(5) 彼はそのすべての質問に答えるのに苦労した。

(answering / the / had / . / all / questions /
he / difficulty)

(6) 彼女は負傷した人々をお世話した。

(care / wounded / took / the / . / of / she)

[解答]

- (4) They spent hours watching TV yesterday.
- (5) He had difficulty answering all the questions.
- (6) She took care of the wounded.

Note

(4) 彼らはきのうテレビを見て何時間も過ごした。

They / spent / hours / watching TV / yesterday.

↑
spend + 時間 + ~ing
「～して(時間)を過ごす」

(4)の問題は、次の表現を使っています。

spend + [時間] + (in[on]) ~ing 「～して [時間] を過ごす」

They spent hours watching TV yesterday.

(彼らは昨日テレビを見て何時間も過ごした。)

「…テレビを見て何時間も過ごした」は、**spent hours watching TV** とすることになります。「何時間も」が **hours** で表されていることに注意しましょう。

Note

(5) 彼はそのすべての質問に答えるのに苦労した。

He had difficulty answering

have difficulty ~ing
「～するのに苦労する」

all the questions.

「そのすべての質問」
※allの位置に注意。

さらに、分詞を含む慣用表現には次のようなものがあります。

have difficulty[trouble / a hard time] (in) ~ing
「～するのに苦労する、苦労して～する」

He had difficulty answering all the questions the students asked.
(彼は学生たちがたずねたすべての質問に答えるのに苦労した。)

(5)の問題では「…答えるのに苦労した」となっていますので、**had difficulty answering** としましょう。

なお、(3)~(5)の表現の ~ing の前に **in** や **on** を付けても意味は変わりませんが、付けた場合、~ing は動名詞になります。現代英語では **in** を付けないほうがふつうとされます。

Note

(6) 彼女は負傷した人々をお世話した。

She took care of the wounded.

「～の世話をした」
take care of ~
「～の世話をする」

「負傷した人々」
the+分詞「～した人々」

分詞を含む慣用表現には次のようなものもあります。

the+分詞 「～の人々」

the dying (死にかけている人々)

ただし、次のように1人の人を意味する場合がありますので、注意が必要です。

the accused (被告)

the departed (故人)

(6)の問題では「…負傷した人々…」なので、**the wounded** を使って英文を作りましょう。「…をお世話した」は **take care of** 「～の世話をする」を過去形にして **took care of** とすることになります。

